

連載48

そして音楽の旅は続く ラテン音楽との出会い



▲GETZ/GILBERTO

この9月号が出るころには厳しい暑さも一段落しているといいな。若い時から夏は大好き!なのですが、近年は暑すぎますよね。私が子供のころはエアコンの無い家庭も多く、扇風機だけで過ごしたもんです。夜は窓を開けて寝ると寒いくらいでした。でも今は熱中症を考えるとエアコンは必要ですね。地球の温暖化を考えると悩ましいのですが、とりあえず今夜は涼しくして、良い眠りにつきましょ。

さて今回はラテン音楽との出会いをお喋りしたいなあと思います。ジャズ歌手は、ボサノバも唄うことがあります。ボサノバの名曲「イバネマの娘」は必須だと思いますし、ジャズのスタンダード・ソングをボサノバのリズムにすることもよくあります。ジャズ歌手が最初に手に取るボサノバは

「GETZ/GILBERTO」というアルバム回りだと思います。ポルトガル語と英語の歌詞があって、英詞のほうは取り掛かりやすいですね。私も初ボサノバの「イバネマの娘」はこの英詞で覚えました。次に覚えたのはミュージシャンがよく演奏する「TRISTE」という曲で、ポルトガル語を耳コピしてライブで唄ってみました。すると、アレアレ?なんかミュージシャンの演奏と私の歌は、リズムの雰囲気が違うぞ~ということに気が付きました。さあ!勉強です!ジャズピアニストの重久義明さんに、ボサノバ歌手の野沢知子さんを紹介していただき、ポルトガル語の歌詞の読み方を指導してもらいました。個人的な考えですが、やはり演歌は日本語、ジャズは英語、ボサノバはポルトガル語という原語を、先ずはやってみた方がノリを掴む勉強になる気がします。そして勉強も目標無しではダラダラしてしまうので、一夜限りのボサノバライブを企画しました。ピアニスト重久さんと、ギタリスト須古典明さん、パーカッションにはケベル木村さん。ケベルさんはボサノバ界の重鎮ですが、とっても優しくあったなあ。緊張の連続の一夜でしたが、楽しいライブでした!ボサノバのリズム修行のために、今でもボサノバはポルトガル語で唄うことが多いのですが、なんと!今度は「BESAMEMUCHO (ベサメム

ジャズボーカリスト 星乃けい

official website

<https://www.hoshinokei.com>

チョ)!スペイン語です。スペイン語がお得意なお客から発音ミスをご指摘頂いたのですが、発音ミスのご指摘は本当にありがたいです。以前にもジャズのスタンダードソング「素敵なあなた/Bei Mir Bist Du Schon」を歌った時にドイツ語の読み方をお客様に教えていただきました。「BESAME MUCHO」は人気のある曲なので今度はスペイン語の勉強です。師匠は伝説の日本人ラテン歌手、YOSHIRO 広石さんです。ジャズ歌手って、意外とやる事がたくさんあって、ボケボケしてられないのよ~。めっちゃ!楽しいんだけどね!



Photo: Yoshiro Yasuda

2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をLP、CDでリリース。オーディオファン、ジャズファンから高く評価支持される。